

今の私をつくってくれた、あの頃の私へ

五年前の私へ

突然のお手紙ごめんなさい。今、この手紙を書いているのは、高校生になった貴方です。有り得ないって思うよね。でもね、どうしても貴方に伝えないといけないことがあるの。私は、貴方にこれを伝えずに大人になることは出来ない気がしているの。だから、最後まで読んでくれたら嬉しいな。

きっと貴方は今、とても苦しい思いをしているよね。「おはよう。」なんて言っても、誰も返してくれないね。話しかけてくる子もいないよね。教室は針のむしろだから、休み時間には、図書館で何度読んだかわからない本のページを何度も読んでいたよね。あ、読んでいた振りかな？でも、それも苦しくて教室に行けなくなるよね。いわゆる、保健室登校ってやつだよ。でも、保健室にいるのでさえも、不安だったよね。「あの娘達がやって来るんじゃないか。」って。寂しいよね。不安だよ。心細いよね。

でもね、苦しいのはそれが最後だよ。大人になってからのことは、私にも分からないけれど、でも少なくとも今の私になるまでの時間は、こんなに悩むことはないし、これからもきっとないと思う。

そう、私はね今とても幸せだよ。貴方は、友達なんてもう出来ないって思っているでしょう？信じられないって思っているでしょう？確かに、今でも人を信じるのは怖いよ？人見知りにもなった。でもね、ちゃんと信じられる友達が貴方には出来るよ。大丈夫。決して数は多くないけれど、私が信じているのと同じくらい、ううん、それ以上に私を信じてくれる人達だよ。貴方が苦しみを向き合ってくれたから。立ち止まらないでくれたから。前に進もうとしてくれたから。私はこんなに素敵な友達に出会うことが出来ました。本当にありがとう。

あとね、もう一つ。貴方に感謝したいってことがあるんだ。私はね、大学は心理学科を目指そうと思うの。いじめられた経験がいつか誰かの心の傷を癒すことに使えたらいいなあって。貴方が、ちゃんと自分と向き合ってくれたから、私は自分のやりたいことを見つけることが出来ました。ありがとう。

今は、苦しくて仕方がないかもしれないけれど、その経験はいつか貴方の力になります。まあ、そう思えるまでにも、結構時間がかかるんだけどね。

私ね、思うんだ。もしかしたら、人を信じるって自分を信じてあげることなのかもしれないって。

私が信じられるような貴方でいてくれて、ありがとう。

高校生の私より